

研究会だより

2026年1月14日 発行（第61号-1）

発行：河川委員会

（建コン中部支部技術部会内）

これらの活動を先頭に立って進めていく場として「河川委員会」を位置づけ、以下の委員で運営しました。

令和7年度 河川委員会委員名簿

名称	所属	氏名
河川委員長	中央コンサルタンツ(株)	石崎 伸明
副委員長	パシフィックコンサルタンツ(株)	浅野 寿雄
副委員長	(株)建設技術研究所	吉村 英司
委員	(株)オリエンタルコンサルタンツ	青山 哲司
〃	(株)ニュージェック	松井 潤一
〃	いであ(株)	小林 雄介
〃	セントラルコンサルタント(株)	遠藤 信之
〃	八千代エンジニアリング(株)	上原 勇一
〃	大同コンサルタンツ(株)	鶴飼 賢吾
〃	(株)建設技術研究所	瀧田 陽平
〃	大日コンサルタント(株)	小原 正慎
〃	中日本建設コンサルタント(株)	立松 敦史
〃	(株)テイコク	樋 峰生
〃	(株)エイト日本技術開発	家田 浩之
〃	中央コンサルタンツ(株)	野川 浩生
〃	日本工営都市空間(株)	末永 匡美
〃	(株)興栄コンサルタント	長尾 佳幸

令和7年度 活動状況

活動計画	主な活動内容
定例会議	9回実施（4月・5月・6月・7月・8月・9月・10月・11月・12月）
河川検討グループ総会	開催日：令和7年7月2日（水） 場 所：今池ガスビル（集合+WEB形式） 内 容：令和6年度活動報告と令和7年度活動計画及び講演 講師・講演：国総研 河川研究部 水防災システム研究官 竹下 哲也 氏 「流域治水デジタルテストベッドの整備と官民連携の研究開発の展望」
河川技術セミナー	開催日：令和7年11月26日（水） 場 所：愛知県産業労働センター（ウインクあいち） 講 演：①流域総合水管理の推進 ②流域総合水管理に資するダム管理の高度化 講 師：①中部地方整備局 河川部河川情報管理官 伊藤 敏弘 氏 ②京都大学防災研究所附属水資源環境研究センター 特定教授 角 哲也 氏
第1分科会と第2分科会	第1分科会（治水・利水・環境等の調査・計画分野） 開催日：令和7年11月17日（金）集合+WEB形式 第2分科会（河川、砂防施設の構造計画・設計分野） 開催日：令和7年10月24日（金）集合+WEB形式
河川見学会	開催日：令和7年10月31日（金） 場 所：新水門川排水機場、日光川2号放水路
広報（研究会だより）	委員会活動報告・開催行事等を報告する「研究会だより」は年1回（1月）発行
建設技術研修講師派遣	中部地方整備局 河川技術研修（8月5日～7日4講座） 愛知県/河川計画実務講座（7月23日、24日4講座）、 設計エラー防止実務講座（7月10日1講座）、環境管理講座（10月28日2講座）：WEB 三重県 4講座
中部地方整備局意見交換会	河川部との意見交換会 今後、委員にて議題の抽出、地整と協議
R8 業務技術発表会幹事委員会	令和8年10月22日（木）で会場予約済 支部長・副支部長・部会長・副部会長の予定確認

1. ごあいさつ

河川委員長 石崎 伸明

令和7年4月から河川委員会の委員長を務めさせていただいております。今年度は、河川検討グループ総会をはじめとする年間行事を集合形式とオンライン形式で開催することができました。これら年間行事には、委員をはじめ会員の皆様のご支援・ご協力により、非常に多くの方に参加いただきました。令和7年度は、34社294名に会員登録していただいております。「令和7年度 河川検討グループ総会」には会場で67名、WEBで100名の方に参加いただきました。誠にありがとうございました。来年度も会員の皆様の技術交流と情報交換を図るとともに、中部支部の活動を推進することによって、コンサルタントの地位向上ならびに河川業務の円滑な実施のための環境づくりを目指し、以下の基本方針のもと活動して参ります。

方針1：河川の専門技術に関する交流活動、見学会、技術セミナー、技術発表会等を通じて、会員の皆さんの技術交流と情報交換を図ります。

方針2：河川、砂防、海岸業務に関する会員の意見・要望を発注者へ伝えるとともに、発注者からの要望を会員の皆さんに伝えることによって、業務に関する相互理解を深めるとともに、コンサルタントの地位向上ならびに河川業務の円滑な実施のための環境づくりを目指します。

①河川、砂防、海岸業務に係わる施策、新規事業、新技術に関する情報をタイムリーに取り上げ、河川技術セミナーを開催します。河川技術セミナーは、従来から行政機関の職員や大学の学生を招待するなど、広く門戸を開き、（一社）建設コンサルタンツ協会中部支部の活動PR、中部の河川技術向上に寄与してきました。今年度も支部の共益事業として位置づけ、河川委員会と中部支部の共催で行います。

②（一社）建設コンサルタンツ協会中部支部のメンバーとして、中部支部が開催する業務技術発表会、各種技術セミナー活動に参加します。

③（一社）建設コンサルタンツ協会および同中部支部が主催・後援する行政懇談会、技術講演会の情報を会員に紹介し、河川委員会活動に関わる催しに積極的に参加します。

④河川、砂防、海岸業務に関する会員の意見・要望を発注者へ伝えるとともに、発注者からの要望を会員の皆さんへ伝えることによって、業務に関する相互理解を深めるとともに、円滑な業務実施の環境づくりを目指します。

研究会だより

2026年1月14日 発行（第61号-2）
発行：河川委員会
（建コン中部支部技術部会内）

2. 事業報告

<河川検討グループ総会>

令和7年度河川検討グループ総会を、令和7年7月2日に今池ガスビルで開催し、会場で67名、WEBで100名の方に参加頂きました。

●プログラム

I 特別講演会

■講師

国総研 河川研究部 水防災システム研究官

竹下 哲也 氏

■講演

『流域治水デジタルテストベッドの整備と官民連携の研究開発の展望』

II 総会

- 1) 挨拶 …………… 関根技術副部長
- 2) 令和6年度活動報告 石崎委員長、各担当委員
- 3) 令和7年度活動計画 石崎委員長、各担当委員

III 交流会

●総会の内容

総会では、関根技術副部長による開会挨拶の後に、石崎委員長及び各担当委員より令和6年度の活動報告を行うとともに、令和7年度の活動計画を発表しました。

特別講演会は、国土技術政策総合研究所 河川研究部の竹下哲也氏より、『流域治水デジタルテストベッドの整備と官民連携の研究開発の展望』と題してご講演頂きました。

先生は、本省治水課の課長補佐や、国総研水循環研究室長、国総研河川研究部水防災システム研究官などの役職を歴任され、国の研究機関の最前線にて、幅広くご活躍されています。

講演では、現場レベルでは馴染みが薄かった「流域治水デジタルテストベッド」の取組状況について、取組のきっかけや経緯・意義、デジタルテストベッドの各階層における具体的な取組例・今後の展開や活用の展望まで、一気通貫に大変解り易くご講演頂きました。

ご講演を通じ、「実装前夜の技術」や課題解決に資する解析のテストフィールドが幅広く現場に供用されることで、作業効率の格段の向上と、より本質的なコンサルタントとしての技量が期待される未来が間近に迫っていることを示唆頂きました。総会後の交流会は、たくさんの若手技術者が積極的に講師と交流を持つ様子や、他社の技術者同士の積極的な交流が多く見られました。技術者の成長の場の一つとして、このような対面での交流の機会を引き続き提供することは、河川委員会の役割として改めて重要と感じました。

【総会の様子】



【竹下水防災システム研究官の講演の様子】



【交流会の様子】



研究会だより

2026年1月14日 発行（第61号-3）
発行：河川委員会
（建コン中部支部技術部会内）

●アンケート結果

会員企業の皆様にとって、より意義のある活動を行っていくため、総会参加者を対象とした『河川委員会活動に関するアンケート』を実施しました。アンケートは、「河川検討グループ総会・特別講演」について実施しました。

その結果、数多くの回答を頂きましたので、ここに御礼申し上げます。皆さまからのご意見を参考に、今後の講演会を企画していきたいと思っております。

アンケート：河川検討グループ総会・特別講演

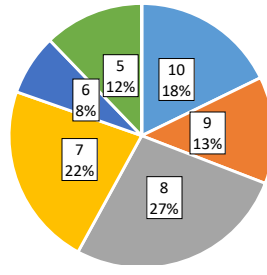
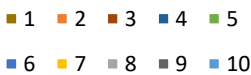
- 問①：講演に関する評価
問②：年代
問③：来年度以降に希望する開催方法
問④：来年度以降に希望する講演内容

※アンケートの回答は107名より頂きました

1. 講演に関する評価

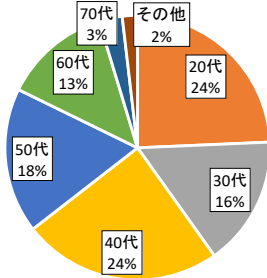
講演に関しては、評価点が高く好評であったことが伺えました。

（点数：数字が大きい程、高評価）



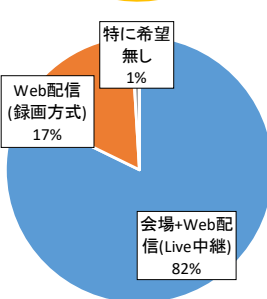
2. 年代

講演の聴講年代は、20代が比較的多い状況でした。



3. 来年度以降に希望する開催方法

来年度以降に希望する開催方法については、会場+Live配信が大半でした。



4. 来年度以降に希望する講演内容

- デジタルテストベッド：今後の進展・動向
- 流域治水：関係機関との連携、今後の展開
- 新技術：近い将来導入されそうな技術、河川環境技術の開発
- DX：CIM事例（効率化事例、課題と解決の可能性）、ICT施工、IT関連やAI関連の最新情報
- 気候変動：河川整備基本方針変更の知見とりまとめ、気候変動対策の取組状況

- 災害：災害業務の実務例
- 防災：河川氾濫対策に関する視覚的周知インフラの整備
- 構造物：河川構造物、砂防施設に関する紹介
- 河川管理：UAV活用、維持管理手法の最新事例
- 基準類：技術基準の改定に関する話題

5. ご意見・感想

本講演については、非常に多くのご意見・感想を頂きました。その一部を以下に抜粋します。アンケート内容は、若手技術者からベテラン技術者まで総じて好評でした。

- デジタルテストベッド（デジタルの実験場）の展望についてとても興味深い講演であった。デジタル化により仮想空間での実験が可能となり、ノーリスクでの検証ができる利点があり、避難経路などの検討に有意義なものと感じた。また、流域治水を自分事としての意思形成ができることはよいと感じた。一方で、デジタルが故にインプットするデータの適正を確認することが重要であることを学んだ。これは、日ごろの通常業務にもあてはまることだと改めて痛感した。
- 民間企業や大学などが新技術を生み出した場合、実際にその技術が国や地方自治体などで活かされるかという点、なかなかすぐには新技術は浸透せず、せっかく生み出した技術によって得られる社会的な利益が多く失われているのではないかと思います。そういったなかで、今回の講演の主題であるデジタルテストベッドは技術開発を単に促進するだけでなく、技術の実用性の評価を実施することで開発後の実装に至るまでの期間の短縮に繋げることができると、有用な取り組みだと感じました。
- これまで「デジタルテストベッド」という言葉自体は社内で耳にしたことがありましたが、その具体的なシステムの内容や導入目的、また現在の開発状況については詳しく把握していませんでした。しかし、今後私たち20代の若手世代が中心となって業務を担っていく中で、こうした最先端技術を積極的に活用する機会は確実に増えていくと感じています。そのため、今のうちからデジタル技術の動向についてしっかりと情報を収集し、理解を深めることで、今後の業務にスムーズに対応できるよう努めていきたいと考えています。
- 今回のテストベッドに関する話を聞いて、これまで一部の研究機関だけが保有していたようなデータに、中小企業のコンサルタントが触れる機会はほとんどなかったと思います。しかし、近年はこうしたデータのオープン化が進み、私たちも気軽に活用できる環境が整ってきたことは、とても良い変化だと思います。一方で、これまで研究者が扱ってきたデータの内容を私たち自身がしっかりと理解し、社会課題の解決につなげる活用方法やアイデアを考えていく必要があると感じました。

研究会だより

2026年1月14日 発行（第61号-4）
発行：河川委員会
（建コン中部支部技術部会内）

<河川技術セミナー>

担当：浅野副委員長（パンフィックコンサルタンツ(株)）
吉村副委員長（(株)建設技術研究所）
末永委員（日本工営都市空間(株)）
樋委員（(株)テイコク）

河川技術セミナーは、会員企業の技術向上・分野動向把握だけでなく、官公庁や学生等を含めて多くの方に最新の技術情報を提供するため、平成13年度より年1回開催しております。令和7年度の河川技術セミナーは、河川行政の動向や気候変動下の洪水リスク評価に関する最新の知見を得るため、以下の通り実施しました。

- 開催日：令和7年11月26日（水）
- 場所：愛知県産業労働センター（ウインクあいち）
- 講師／演題：
講演Ⅰ 『流域総合水管理の推進』
国土交通省 中部地方整備局 河川部
河川情報管理官 伊藤 敏弘 氏
講演Ⅱ 『流域総合水管理に資するダム管理の高度化』
京都大学 防災研究所 附属水資源環境研究センター
特定教授 角 哲也 氏
- 会場申込者：66名（官公庁7名、支部会員52名、企業6名、個人1名）
web申込者：232名
- 講演内容：

講演Ⅰ：流域総合水管理の推進

講演Ⅰの「流域総合水管理の推進」では、流域治水の考え方を交え、流域総合水管理の目的や推進するにあたっての課題、現在の取り組み事例について講演頂きました。

流域総合水管理とは流域治水、水利用、流域環境の一体的な取り組みであり、「水災害による被害の最小化」「水の恵みの最大化」「水でつながる豊かな環境の最大化」の実現に向け、治水に加え利水・環境も流域全体であらゆる関係者と共同して取り組むとともに、流域治水・水利用・流域環境間の相乗効果の発現や利益相反の調整を図ることが必要であることを学ぶことができました。

講演Ⅱ：流域総合水管理に資するダム管理の高度化

講演Ⅱの「流域総合水管理に資するダム管理の高度化」では、様々な研究・検討事例を交え、水利用におけるダム再生や事前放流等について講演頂きました。

気候変動や社会的ニーズの多様化により、ダムは治水・利水・環境の三面から流域全体を支える重要なインフラとして、その役割が拡大しています。そのなかの水利用においては、治水と利水のWIN-WINをもたらす必要があり、土砂管理や予測情報の高度化が重要であることを学ぶことができました。

今年度の河川技術セミナーは、会場申込・Web申込と併せて約300名の方に視聴して頂き、改めて、流域治水や気候変動への関心の高さを伺うことができました。

【講演会場の様子】



【講演の様子（講演Ⅰ）】



【講演の様子（講演Ⅱ）】



6. 来年度以降に向けて

会員企業の皆様にとって、より意義のある活動を行っていくため、河川技術セミナー参加者を対象としたアンケートを実施していく所存です。

河川技術セミナーでは、毎年の旬な話題を取り上げて講師の方を招いての講演を開催しております。来年度も、皆様にとって有益となるようなセミナーを開催できるよう企画していきたいと思っております。

研究会だより

2026年1月14日 発行（第61号-5）
発行：河川委員会
（建コン中部支部技術部会内）

<分科会活動>

●第1分科会（河川計画・環境）

- 座長：長尾委員（(株)興栄コンサルタント）
副座長：立松委員（中日本建設コンサルタント(株)）
：上原委員（八千代エンジニアリング(株)）
：家田委員（(株)エイト日本技術開発）

第一分科会は、河川、砂防の計画に関する分野で、近年の河川、砂防計画の動向を踏まえた新たな技術も含めた計画全般をテーマに活動しています。

令和7年度は河川の治水に強く関わる『都市浸水と避難』を題材に勉強会を行いました。

【概要】

1. 開催日：令和7年11月17日（月）
2. 会場：ハイブリッド形式（集合+オンライン）
3. 講師/演題
中部大学 工学部 都市建設工学科
教授 武田 誠 氏

『地下空間を考慮した都市浸水解析と避難シミュレーション』

4. 参加申込者：直接：20名 WEB：101名（71アクセス）
5. 講演内容：

講演テーマは河川検討グループ会員からニーズのあった「都市河川」「治水対策」というキーワードを踏まえ、「都市浸水と避難」をテーマとしました。近年では、気候変動に伴い豪雨災害が増加しており、各地で浸水被害が多発している状況にあります。その中でも、都市部での浸水被害は甚大な被害をもたらすものであり、都市浸水に関わる課題解決策の立案は非常に重要となっております。

このような現象を踏まえて、都市浸水・氾濫解析について研究されています、中部大学工学部都市建設工学科の武田誠教授をお招きしまして、「地下空間を考慮した都市浸水解析と避難シミュレーション」というテーマでご講演頂きました。

講演では、氾濫解析に関わる質量保存やT-SASの活用など氾濫解析における基礎知識を学ぶとともに、千曲川破堤による浸水の数値解析事例をご紹介いただきました。また、本テーマである地下空間について、名古屋市を題材に地下鉄を考慮した浸水解析並びに地下街を考慮した浸水と避難シミュレーションについてご講演いただきました。加えて、近年の浸水解析研究事例として自動車の流送を含む市街地の浸水解析についてご紹介いただきました。本講演で氾濫解析の基礎知識を学ぶとともに、身近にある地下空間の浸水について大変興味深いお話をして頂きました。

今回の講演により、河川技術者が持つべき都市域での治水や避難に関する知見を得られたことは、コンサル技術者にとって

大変有益な内容であったのではないかと思います。講演開催においては、例年を上回る受講のご参加を頂き、また後の質疑応答も頂きまして、関心の高さを感じました。

来年度以降も皆様の意見等を踏まえて、テーマや開催方式を検討していきます。

【武田教授による講演の様子】



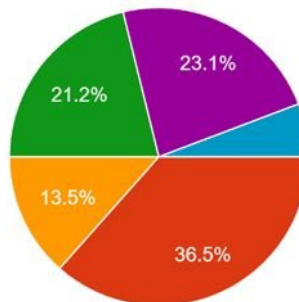
6. アンケート

会員企業の皆様にとって、より意義のある活動を行っていくため、第1分科会参加者を対象としたアンケートを実施した結果、52名から回答を頂きました。

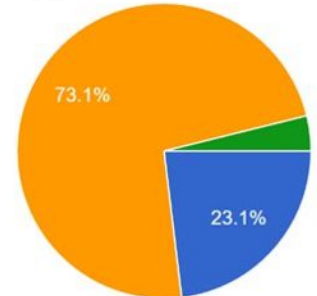
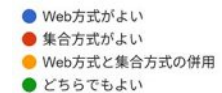
講演に対する感想は、「とても良かった」～「良かった」との意見が9割以上を占めました。

開催方式については、Web方式やWeb方式と集合方式の併用を希望する意見が多く、引き続きWeb配信・集合方式併用を考慮する必要があると考えています。

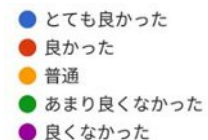
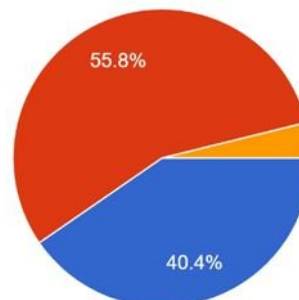
問：年齢



問：開催方式



問：講演について



研究会だより

2026年1月14日 発行（第61号-6）
発行：河川委員会
（建コン中部支部技術部会内）

<分科会活動>

●第2分科会（河川構造計画・設計）

座長：鶴飼委員（大同コンサルタンツ(株)）
副座長：青山委員（(株)オリエンタルコンサルタンツ）
：小原委員（大日コンサルタンツ(株)）
：野川委員（中央コンサルタンツ(株)）

第2分科会は、河川、砂防施設の構造計画・設計に関する分野で、近年の河川整備の動向を踏まえた新たな技術も含めた設計全般をテーマに活動しています。

令和7年度の分科会は、技術紹介としてネイチャーポジティブに関する勉強会を行いました。

【概要】

1. 開催日：令和7年10月24日（金）
2. 会場：ハイブリッド形式（集合+オンライン）
3. 講師/演題
土木研究所 流域水環境研究グループ
グループ長 中村 圭吾 氏
『ネイチャーポジティブな川づくり・流域づくり
～3次元川づくりの可能性～』
4. 参加者：集合32名、web107名
5. 講演内容：

本講演では、環境政策の新たな潮流である「ネイチャーポジティブ」を軸に、河川・流域環境のマネジメント、生物多様性ネットゲイン、そして3次元川づくりの取り組みと課題について紹介して頂きました。

まず、ネイチャーポジティブとは、生物多様性の損失を食い止め、回復させることを目指す目標であり、国内の動向や河川整備においても重要な視点となっていることや、従来の治水中心の河川管理から、流域全体の生態系を考慮した「流域治水」や「グリーンインフラ」の導入が進められており、自然と共生する川づくりが求められていることが理解できました。

次に、生物多様性ネットゲインは、工事によって失われる自然環境を、事前よりも良好な状態に回復させることを目指す考え方で、英国では法制化されており、日本でも河川改修や湿地再生を通じて、ネットゲインの実現に向けた取り組みが始まっていることを学ぶことができました。

さらに、3次元川づくりでは、グリーンレーザ（ALB）を活用した河川測量、それを基にした3次元設計、さらにはゲームエンジン等の技術動向についても学ぶことができました。

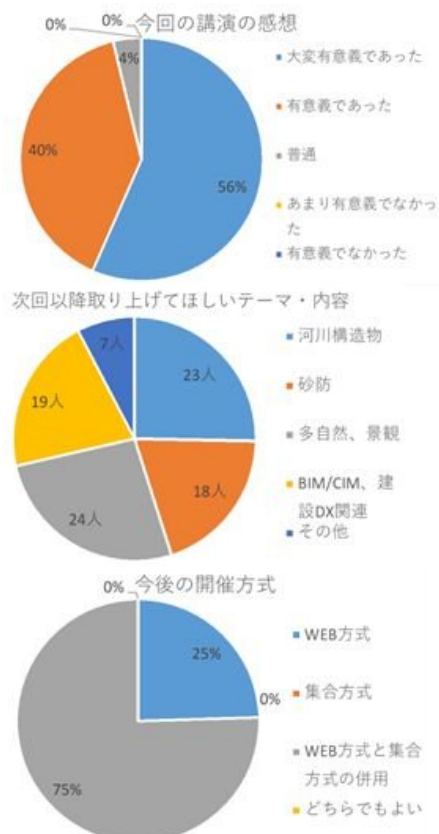
本講演を通じて、河川環境の保全・再生に向けた新たな視点と技術の可能性、そしてそれを実現するための制度・人材・連携の重要性が再認識され、大変有意義な内容となりました。

【講演の様子】



6. アンケート結果

講演内容については好評であり、開催方式については、web希望が多い結果となりました（回答53名）。



研究会だより

2026年1月14日 発行（第61号-7）
発行：河川委員会
（建コン中部支部技術部会内）

＜河川見学会＞

担当：遠藤委員（セントラルコンサルタント㈱）
瀧田委員（㈱建設技術研究所）

河川見学会は、机上だけでは経験できない実際の施工現場を見学し、管理者や施工業者から工事の際の苦労や設計時に留意して欲しい事項に関するお話を聞き、より良い検討・設計を行うための一つの機会として活動しています。

令和7年度の見学会は、下記のとおり開催しました。

【概要】

- 開催日：令和7年10月31日（金）
- 見学場所：
 - ①新水門川排水機場堤外水路工事
（木曾川上流河川事務所管内）
 - ②日光川2号放水路発進立坑工事
（愛知県一宮建設事務所管内）
- 参加者：19名（10社）
- 見学会概要：

令和7年度の河川見学会は、①新水門川排水機場堤外水路工事（木曾川上流河川事務所管内）と②日光川2号放水路発進立坑工事（愛知県一宮建設事務所管内）の計2現場を見学しました。

新水門川排水機場堤外水路工事では、国交省の職員から事業説明があり、関連施設も合わせると3基の排水機場と樋門の他、堤外水路や築堤といった複数の工事が密集しており、水路の切り替えを行いながら約13年もかかる大変な工事であることがわかりました。その後、工事内容を説明していただきながら施工現場を見学しました。施工済の地盤改良工事は、川表側の施工でありながら死水域といった特殊条件より出水期施工で実施したことや、急な出水による安全対策として、改良機の基盤高をHWL以上にするなどの工夫をされたそうです。樋門工事では、門柱のテーパ部施工に苦労したとのことでした。法面の雨裂の状況も確認でき、土質が悪いことがわかりました。現場に行かなければ気付かないことが多いことを実感しました。また、数十万m³もの土量を扱うため、土砂の利活用も課題であることがわかりました。

2号放水路発進立坑工事では、施工会社の方から現場を案内していただきました。外径約20mもあるケーソンを圧入して沈設していくのですが、傾きや回転がないように施工するのが非常に重要で、その速度は1分間で数mm程度と非常に遅いことに驚きました。ケーソンを埋設するためにクラムシェルで水中掘削の様子をケーソン上部から見ることで、迫力を感じ

ました。また、複数あるジャッキの圧入を制御する様子や実際に埋設していく様子も見ることができ、貴重な経験となりました。工事現場の上空には高圧線が通っていたため、レーザーバリアシステムや接触リスクの低減を図るためにクレーンの代わりに大型フォークリフトを使用するなど、現場での工夫も聞くことができ良かったです。見学後は、現場事務所に移動し、事業内容や工事内容について説明をしていただきました。パワーポイントによるわかりやすい説明だったため、理解しやすかったと思います。

“現場をよく見ることの大切さ”は昔から言われていますが、改めて設計者として現場状況を把握することが非常に重要であることを学んだのではないのでしょうか。また、今後設計においても貴重な体験となったと思います。

見学後のアンケートでは、概ね良好な感想を頂いています。一部説明の声が届かなかった、見学時間が足らなかったとの意見があったため、今後の河川見学会へ反映させたいと考えています。

【新水門川排水機場堤外水路工事-見学会の様子】



【日光川2号放水路発進立坑工事-見学会の様子】



研究会だより

2026年1月14日 発行（第61号-8）

発行：河川委員会

（建コン中部支部技術部会内）

3. その他の活動報告

(1) その他活動報告

令和7年度、分科会活動の他に河川委員会が取り組んできた、様々な活動について紹介します。

開催日等	開催内容																								
派遣講師	建設技術研修への講師派遣 建設技術職員の資質向上、能力開発及び技術力向上のための建設技術研修に、講師として会員より延べ13名の技術者を派遣しました。 【研修内容】 <table border="1"><thead><tr><th>派遣先</th><th>研修名</th><th>研修内容</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="4">中部地方整備局</td><td rowspan="4">河川部 河川技術 研修</td><td>水文水理観測と水文資料整理【座学】</td></tr><tr><td>高水計画【座学、演習】</td></tr><tr><td>氾濫解析【座学】</td></tr><tr><td>河道計画【座学、演習】</td></tr><tr><td rowspan="4">愛知県</td><td rowspan="3">河川計画 実務講座</td><td>水文観測とデータ処理演習</td></tr><tr><td>洪水処理計画・河道計画演習</td></tr><tr><td>河川管理施設等構造令/解説と演習</td></tr><tr><td>設計エラー防止実務講座</td><td>河川構造物</td></tr><tr><td>環境管理講座</td><td>公共事業と環境 自然環境再生工法</td></tr><tr><td rowspan="4">三重県</td><td rowspan="4">河川計画 ・設計演習</td><td>河川に関する法令・基準類の概説</td></tr><tr><td>河川管理施設等構造令の概説</td></tr><tr><td>河川計画の基礎・演習</td></tr><tr><td>河川施設設計の基礎・演習</td></tr></tbody></table>	派遣先	研修名	研修内容	中部地方整備局	河川部 河川技術 研修	水文水理観測と水文資料整理【座学】	高水計画【座学、演習】	氾濫解析【座学】	河道計画【座学、演習】	愛知県	河川計画 実務講座	水文観測とデータ処理演習	洪水処理計画・河道計画演習	河川管理施設等構造令/解説と演習	設計エラー防止実務講座	河川構造物	環境管理講座	公共事業と環境 自然環境再生工法	三重県	河川計画 ・設計演習	河川に関する法令・基準類の概説	河川管理施設等構造令の概説	河川計画の基礎・演習	河川施設設計の基礎・演習
派遣先	研修名	研修内容																							
中部地方整備局	河川部 河川技術 研修	水文水理観測と水文資料整理【座学】																							
		高水計画【座学、演習】																							
		氾濫解析【座学】																							
		河道計画【座学、演習】																							
愛知県	河川計画 実務講座	水文観測とデータ処理演習																							
		洪水処理計画・河道計画演習																							
		河川管理施設等構造令/解説と演習																							
	設計エラー防止実務講座	河川構造物																							
環境管理講座	公共事業と環境 自然環境再生工法																								
三重県	河川計画 ・設計演習	河川に関する法令・基準類の概説																							
		河川管理施設等構造令の概説																							
		河川計画の基礎・演習																							
		河川施設設計の基礎・演習																							
12月4日 12月5日 ポートメッセなごや （名古屋市国際展示場）	建設技術フェア2025in中部 「学生交流ひろば」として建設コンサルタンツ協会のPRパンフレットやパネル・写真等の展示を用いたブースを出展し、業界団体の主な仕事内容や企業環境など、職業としての建設コンサルタントに関する質問を受け付け、説明を行いました。																								
11月8日 パネル展示 会場：中日ビル	建設コンサルタントフェア2025in中部 「確かな未来をデザインし、安全・安心・快適な暮らしに貢献します」をキャッチフレーズに、市民の安全・安心を守るためには、我々の役割は極めて重要であることをより一層理																								

解して頂くことを目的に、パネル・写真等の展示を行いました。河川委員から2名をパネル説明者として派遣しました。

開催日等	開催内容
10月28日 ウイंक あいち	第35回 建設コンサルタント業務技術発表会 昨年度に引き続き、建設コンサルタント業務に関する技術者の技術力向上と、建設コンサルタント業界の発展・活性化を目的として業務技術発表会を開催しました。 また、今回も若手技術者（新卒入社2年以下）のプレゼンテーション技術向上のため、修士・学士論文発表の機会を設けました。 【審査結果：第2会場（河川・都市計画）】 ・最優秀賞：小林 高浩 （株式会社オオバ） 『大規模開発下においてもホテルの生息環境を維持するエコシステムの創造』 ・優秀賞：石川 空 （日本工営都市空間株式会社） 『都市公園の適正配置による公園面積確保と維持管理負担軽減の両立～うま市公園再編計画～』 ・優秀賞：日比野 翔梧 （大日コンサルタント株式会社） 『中山間地域の中小河川における新しい流域治水検討フロー』 ・プレゼンテーション最優秀賞：山田 莉緒 （日本工営都市空間株式会社） 『沼津市中心市街地の都市形成過程と景観価値に関する研究』

4. お知らせ

研究会だよりでは、投稿をお待ちしております。委員会活動に関する御意見、提案、図書を紹介他、何でも結構ですので、どしどし原稿をお寄せください。

【原稿送付先】

- ・小林雄介（いであ） 名古屋支店 河川部
- E-mail kobayashiyu@ideacon.co.jp

<関連ホームページ紹介>

- 建コン協のホームページ <http://www.jcca.or.jp/>
- 建コン協中部支部ホームページ <http://www.ccainet.org/>

「研究会だより」の配信について

研究会だよりは、より多くの方にご覧頂くため、次号第62号より、会員各位への個別配信は廃止し、建コン協中部支部のホームページ（<http://www.ccainet.org/>）に公開致します。